

合同報告会 要旨

開催日時 11月 22日(木)
19時 ~ 21時

市町村名 大町市 グループ名 1班

要旨

地域高規格道路「松本系魚川連絡道路」大町市意見交換会第一班のまとめ

付託されておりました標記について9月26日以降3回にわたる論議の結果を下記各項のとおり要約したので報告します。

1. 発表の参加者数 82名

第1班参加者数 14名

第2回参加者数 8名

第3回参加者数 7名

2. 結論として標記高規格道路の要否の問いかけ

3. 討論経過の要約

1) 1班1回目の論議の中で

本交換会の意義、必要性。論議不要論。

本交換会記録の活用に対する疑義。

本会提起に至る経緯から行政に対する不信不満の発言続出。

主催者より経過の説明助言で続行。

2) 今日まで当地方が放置されたことに対する不平不満が突出す。

当市立地の不満。～I.Cからの所要時間。(R147号線。明科線。オリンピック道等も季節、時間帯により渋滞ひどし)

農業や観光、商工業など地域地場産業等の振興が大きく阻害されてきている。

北行道(小谷以北)はR148号のみで代替道なし。(小谷災害を忘れてはならない)

4. まとめ

1) 提示されている高規格道路は必要である。

2) よって早期立案着工して開設を求める。

3) 開設に際しての前提条件として

高速道路のない地域を補完すべく地域密着型の道路とし併せて安全並びに利便性を考慮する。

本計画実施に際しては、一市町村の問題とするに止めず視野も大きく将来の広域合併も視点に据え、計画・実行を求める。

この意見交換会は「これにて終り」ではなく本会の要旨は最後まで尊重され且つ又、今後事態の推移に応じて内容を公開し広く民意を反映し対処されることを要求し「まとめ」とします。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 2班 |

要旨

地域高規格道路意見交換会全体集約

1. 構成人員 13名

2. 開催日

第1回 9月26日(水)19時~21時

第2回 10月11日(木)19時~21時

3. 意見交換の方法

最初に、各自3分程度の時間で賛成、反対にとらわれずこの道路に対する意見を出していただき、それらの意見に対し、フリー討議する方法で進行した。

4. この道路に対する主な意見

- 調査路線に指定され、いよいよという時になってどうして早期に着手できないのか疑問である。今この大北地域にとって道路がないと言うことは経済的な面で大きな遅れをとってしまう。地域おこし、街おこしのため、とにかく早期な着手を要望する。
- 道路の確設にはその必要性から云って賛成であるが、ルート設定や、どこから工事を進めるのかなど、沿線住民の合意が必要でその後、建設を進めていくことも大切である。この大北地方にとってどうしても基幹道路必要である。これは豊科インター付近の発展と道路の効果を見ても明らかで、建設に向けて順調な段階になった今、事業の再度見直しするという事自体がおかしいと思う。
- この地方の人口増が伸びないのは高規格道路のような基幹道路がないからである。産業の進展がないため、子供達は故郷に帰ってこず、仕事も南へ行っている。県がゼロから見直すというなら県自ら、そのメリット・デメリットを示してほしい。
- 道路は、国民全体が利用する施設でありなぜ早くできないのか疑問である。この道路は、単に松本と糸魚川を結ぶだけでなく全国にアクセスする交通ネットワークの一部であり、必要かつ重要な道路で早い時期の整備を要望する。大町から北への通勤は冬大変であった。生活道路としても是非必要であり、特に北についてはどうしても必要である。この道路計画には基本的に賛成であるが、ルートについて感心がある。早期建設のため、豊科インターへつなげたらどうか。
- 「道路はいらぬネットワーク」の一員として活動している。この道路計画は見直しが必要であり、反対である。この道路は、計画時点から現実的でなかった。県はこの道路のデメリットについて一つ一つ細かな点を見直し、公表する必要がある。また、環境問題、地形、地盤、国の財源が大きなネックになると思う。特に小谷白馬地区においては、現国道が市町村道となる公算が大きく維持管理費など大きな財源負担が伴う。県は、この道路の費用便益についてもっと検討すべきだ。

などの意見が出された。この中で総体では、出席中12名が条件付も含め賛成、1名が反対の意見でした。続いて10月11日の意見交換会では前回欠席された方の意見を最初にお聞きした。普段バスを運転している糸魚川~小谷を優先して着手してほしい。大町から南は、高瀬川左岸に一方通行から作ればよいのではないか。小谷、白馬、糸魚川を優先して整備すべきでそれから南にはすばらしい道路は不要である。続いて各自の意見に対しフリー討議する形で進行した。

合同報告会 要旨

| | | | |
|---|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 2班 |
| 要旨 | | | |
| フリー討議 | | | |
| 松糸は地形的に問題あり。フォッサマグナの西縁、小谷道路。県レベルでは工事が出来ないため、高田工事がやっている。難所であり、金額がかかる。蒲原沢は地上工事は不可能、財政抜きには語れない。道路以外の市町村財政に負担。 | | | |
| 幹線2本は面倒みない。特に小谷、白馬の今の国道の除雪の負担が問題。小谷道路がポイント。松糸道路はできないと思っているので、小谷道路にトンネルを作る案があり、9年のものが6年でできるのだ。 | | | |
| 今大規模なものを作ると維持管理が子供達の代に負担になる。 | | | |
| 通過車両と生活道路を分けて欲しいということを白馬等で聞いている。生活道路は生活者の負担になる。 | | | |
| 財政状況(国は破綻)将来地元負担はどうなるのか、県、市町村に答えて欲しい。地域高規格道路が出来れば国道は地域管理になる。 | | | |
| 県のレベルとして白紙としているが、調査区間はなにも無いということか。 | | | |
| 初日に配布した資料にあるとおり調査区間が決まっていることは事実。進め方について白紙ということ。 | | | |
| 住民投票でもやらなければ、このグループについてはほとんど促進。報道ではルートについての意見が出ているところもあるので、そういう議論をするのかと思った。知事は我々の意見を聞くふりをして自分の好きなようにやってしまう。 | | | |
| 友人が南へ家を建てている。高速が通っていればもっと大町は賑わっていたのではないか。これまでの努力でこうなった道路、子供のころから欲しかった道路をまた1から話し合わなければならないのか。 | | | |
| 国が指定。県知事が反対してもやめると決まるものではない。 | | | |
| 1回目にてた通り、市民の意見を聞くならアンケートとか必要。町の活性化には企業、観光、学校とか道路が必要。我々の子供の時代には人が減り、道路を作れなくなる。小谷はなにかあれば糸魚川へ行くが、1本しかない道路では生活できない。 | | | |
| 速く人間が移動できることはすごく魅力があり、みんなの協力で道路は出来ている。 | | | |
| ルートに興味、準備段階で自分の考えているルートを反映できるのか。その点を煮詰めることが出来ればと思う。 | | | |
| 必要だと早まったが、道路があることによって望まれる状況を作る。速いことで大町に文化など生まれて来る。 | | | |
| 賛成の立場でこれ以上言うことがない。議員をしているが、22名中4名が反対。陳情に言ったこともある。議員促進連盟を作って促進してきている。国の予算は我々には議論出来ない。調査区間になったことで喜んでいる。木曾、大北だけが道路が無い。大北以北を先にやれという意見もある。とにかくやってほしい。新幹線も高速も無い所にこの道をあけてくれ。 | | | |
| インター、新幹線の円を引けば白地日銀調査で交通網のない所はだめ。全国へつなぐ網の目の一部であるという面が重要。地域をあげてやってきたものを調査路線になったものを原点に戻すことが不自然。 | | | |

合同報告会 要旨

| | | | |
|--|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 10月 11日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 2班 |
| 発言者 | 要旨 | | |
| 調査区間に指定された時に波田につなぐことに反対が無かったのはどうしてか。 | | | |
| 大町としては豊科の方が良いという意見もあるが、松本から糸魚川までの市町村が組んで行っているからまず喜んでいる。 | | | |
| ルートが次の段階に反映されるのか。ルートが決まる段階で私の意見を聞いてもらえるのか。 | | | |
| ルートは白紙なので私案を出して頂けばよい。 | | | |
| 一度ルートが示されると話合いの場がない。 | | | |
| このグループの中で決めることも出来る。 | | | |
| 早期実現を願う。 | | | |
| どういう手法で促進できるかという問題が出てきている。 | | | |
| 地域の生活道路と高規格道路の関係。他地域ではルートについて出している。私は豊科インターからの方が良い。 | | | |
| 堀金大町の調査区間指定は、国営公園があったと思う。国営公園のアクセスとしての関連はどうか。 | | | |
| 関係がないと考えていただいて良い。 | | | |
| アクセス制限がある道路と生活道路は違う。 | | | |
| 改良が必要な部分は県で進めていただきたい。 | | | |
| 白馬、クロスカントリー、周辺のほ場整備道路は使われていない青木湖岸の旧国道はどうなっているのか。 | | | |
| だから地域高規格道路はいらないということにはならない。 | | | |
| 中部縦貫はインターにつながるのか。あそこは高速道路へつながれば良い。糸魚川から小谷が一番大変な道なのでなんとかなればいい。観光の良い所は、ゆったり、のったりもある。外沢トンネルのような所は早く改良して欲しい。 | | | |
| 新潟の道路は地域の人たちが熱望したらから早く出来たと聞いている。 | | | |
| どうしたら早くこの道が出来ようになるかということで、例えば大町市の署名を取るという進め方もある。 | | | |
| この意見交換会が一つの手法だ。 | | | |
| 5. 総括 第2グループにおける意見としては、賛成意見が条件付きを含め圧倒的に多かったがそれぞれの討議もあり、賛成、反対の両論併記とする。 | | | |

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 3班 |

要旨

第3 グループ意見交換会の要旨

普段の生活や職業や年代が違う立場の者が話し合った訳ですが、皆さんの共通点は大北地区の将来に強い不安を持っています。

そこには産業、工業、観光、福祉、医療、教育、家族また今後必要に迫られる広域行政などさまざまな問題の根本に長野県で唯一、高速交通手段を持たない地域の苦悩があります。

以下に交換会であげられた意見を十項目にまとめてみました。

1. 子供たちが大町に残れる条件が無くなっている。隣組16軒中6軒が独居老人だ。全国の人達がここに来るといよりも、大町の人が大町で生活出来るようにするために絶対必要です。
2. 日本は物作りで国の形を作ってきた。そして貿易立国です。世の中が変わっていると言っても物作りの大切さは変わらない。このことが有効に働くためにも国土が一体となった物作りシステムが大切です。そのためにも国が考えている高速交通網ネットワークに積極的に入って行く。この事が将来の大町市民の生活向上につながると考えます。
3. 大町市より南には何本もの道路があるというが、それは全て生活導路であり産業道路がない。生活道路に多くのトラックバス観光地に向かう乗用車が入り込み車の排気ガス、特に夜間の騒音はひどい。そこに住んでいる人の事を考えて欲しい。環境を守るためにも自動車専用道の早期実現を願います。
4. 競争の時代であり、地域間の競争はより強くなっています。したがって観光の仕事をする上でこの地に誘致をするのにインターからの距離が遠い事で次に進めない。相手にされない事が多く、素晴らしい環境資源を観光資源を持ちながら、非常に残念な思いに出会うことが多い。東京から何分ではなく、インターから何分が問題になってる。これはただ観光だけでなくあらゆる産業にかかわる問題です。
5. 20年以上前から大町市の町作りの活動をしてきました。道が出来たからどうだと言う過程ではすでに無く道が無いと既に住んでいけないところまで来ています。町作りを進める上で、県がしっかり自信を持ってルートを明らかにして欲しい。その上で密接に地元の町作りの案に協力して欲しい
6. この道路に3千億円から5千億円見込まれ道路に多額の投資をせず福祉や教育に回せばいいと言う意見がありますが国が決定権を持つ事業であり公共事業の見直しがされたとしても道路予算はなくなりません。予算配分が変わるのであり総額が減ることは考えられるが福祉教育へ影響するのは全体の公共事業であり個々の建設事業ではない。よく理解しなければならない点は、ここに 있습니다。道路事業費をどのように活用するかであり、この事業にこの地域の将来が大きく左右されることを認識し議論すべきです。
7. 自分たちの地域には既に高速道路が来たから、これから作る松本系魚川道路は無駄だというならこの地域の税金は少なくてもいいはずだ。更に長野道が開くときは、豊科、穂高に反対運動があったのだろうか?豊科インター周辺は安曇野ではないのか!今回だけ反対するのは随分虫のいい話だ。
8. 南北に長い大北地域は大系線を利用すると2時間を要する。長野新幹線利用なら長野から東京で乗り換えて横浜に行ける。その上大系線は1時間に1本も確保されていない。南小谷以北は更に深刻だ。市町村の合併が進められた時この交通網ではこの地域は成り立たなくなる。

合同報告会 要旨

開催日時 11月 22日(木)
19時 ~ 21時

市町村名 大町市 グループ名 3班

要旨

9. この道路計画が一部調査区間まで格上げされてきた実績を軽視しないで欲しい。今まで積み上げてきたものにはこの地に生活する人々が選挙により市会、県会議員に負託した市民の要望の結果である事を認識して欲しい。

10. 自然を守るというのはまとまりやすい。そして反対運動がおきる。長野新幹線もそうであった。しかし、その反対者もその新幹線を幾度となく利用し、便利さ、快適さを享受しているのが現実です。したがって松本系魚川連絡道路が実現した時、反対の皆さんも利用し、今はまだ解らない多くの長所がきっと見えてくるはずです。そして多くの理解される点があると思います。

以上地域高規格道路の早期実現を希望する意見が多く出されました。

大北地域は長野県の中でも特に寒冷地であり、更に豪雪地の厳しい自然環境の地であります。その恵まれない土地産業を育成し、文化を守り育ててきました。しかし産業が衰退し、それとともに人口の流出が加速度的に進んできています。

王子の祭りなど大町の伝統的文化までも、その存続の不安が生まれてきています。

自然は残れどもそこには荒れ果てた町並みと活力を喪失した地域が想像できます。この地に住むものは、自然の厳しさや恐ろしさを知るからこそ、そこには畏敬の念があり、どの地の人より自然の大切さは忘れるものではありません。

自然を守るという名のもとに大北地方だけを高速ネットワークから外す事は、許容できるものではありません。

また安曇野の木立を切り開き、そこに家を建て その後は自然の大切さを訴える立場と変わる事への矛盾を感じます。

この地での生活が保たれ、家や土地を継続することも大切な自然保護ではないでしょうか。

都会の理論に軸足を置くのではなく、ここに住み続ける人々の痛みと不安の思いを深く理解していただきたい。この計画が店晒しにされ、干からびる前に長野県政の力を持って、1日も早く推進してください。

この大北に他の地域と共通の社会基盤の整備として強く高速道路建設を要請いたします。意見交換会の参加者がそれぞれの生活や仕事の上で体験した交通の不便さで失うものの大きさを意見を重ねるにしたがって知る事ができ、より一層松本系魚川連絡道路早期実現を強く望む意見にまとまりました。

これが第3グループの意見交換会の集約された提言です。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 4班 |

要旨

地域高規格道路 大町市 意見交換会 4グループまとめ

【賛成意見】

- ・ 高規格道路については賛成である。
- ・ いろいろ今まで論議してきたことが疑問であった。大町もますます陸の孤島になってしまっている。孫たちへも遺産として残して行きたい。
- ・ 地域の産業の発展にも大変重要である。北アルプスと出口、入口としての国土開発が遅れている。
- ・ 「なぜ高速道路が通らないのか？」という意見を持っている。
- ・ 観光的立場から賛成。7.11 災害をみて、道路が弱いと感じた。蒲原沢の時にもこれを感じた。だから災害に強い道路が必要だと考えている。また災害時に重機を搬入するのに狭くて困った。
- ・ 自分の家から出るにも時間がかかるので、目的に合わせた道路を作ってほしいと思っている。
- ・ 道路は地域の発展の基本となると思っているので早期に着工して欲しいと思っている。
- ・ 1年前にもこのような会はあったが、全く進んでいないというのが今日分かった。私もIターンで15年になる。
- ・ 最後に民間は金が無いと、設備投資ができないが、社長の一言。大町市にとって最初で最後のチャンスだと思っている。
- ・ 新潟県でも作られており、スムーズな道であり、このような道が早くに実現してほしい。(大型車も多く交通量が非常に多くなっているため)
- ・ 建設は早期にお願いしたい。
- ・ 大町の現状で20年、30年後の先を見て流通の確保(産業の確保のため)
- ・ 最終的には道であると思う(高規格な道路があって良いと思う)。
- ・ 高速が出来て、インターが出来た所の半径20km内の経済が上がったと新聞報道があった。
- ・ 生活道路の安全確保のため早期整備は必要。
- ・ 町の発展の為に必要。
- ・ 魅力ある町を作らずに、通過点になるから道はいらないと言うことは反対。

【反対意見】

- ・ 今実際に混んでいないので整備する必要がない。5,000億をかけて借金を残して整備する必要があるのか?景観で商売しているにもかかわらず、道路をあけるのはどうか。
- ・ 高規格道路のような大きな道路はいらないのではないかと(近所のお年寄り意見)。
- ・ 道路が出来たことによって、経済が上がる時代は終わった。
- ・ 今の経済変化の中で本当に必要なかと思う事もある。
- ・ 高規格道路の建設について個人的には反対。しかし、いろいろな立場に必要な所もあると思っているので白紙である。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 4班 |

要旨

【その他】

- ・ 大町に暮らして2年ぐらいになる。今日は高規格の内容についてもう少し分かるかと思って参加しているので、意見は今回は言えない。越冬に苦労している。来週は進んだことを話したい。
- ・ 「いいか」「悪いか」の判断が出来るか？一般の人に判断材料が提供されることが必要である。情報公開・資料提供を徹底して欲しい。

質問：(さんへ) 市民が判断する材料が不備であると言ったがどんな情報が必要なのですか？

答え：

松本・波田起点で始まったけれど豊科起点変更の根拠を知りたい。

調査区間(堀金～松本)は最近小谷といわれているが、これが先にできないか？

松川村においては調査区間を小谷に移してもらいたいという議会でまとまっている中で、法案がまとまるのか。起点が良くわからなくなっている。

問答集がどういう理由で作られているのか？賛成の立場で作っていると市の担当者から聞いたがそれでいいのか。公平に市民に伝わるのか。できれば今回の会で全員に配ってほしい。

- ・ 調査区間の変更について。小谷・白馬は必要だと多くの人がいっているので平行してこれを進めていって欲しいという捉え方だと思っている。
- ・ 賛成・反対で合いぶつかり合うのではなく、いろいろな情報をみんなで引き出す。
- ・ (持参資料の説明)「緑化の為に種から育てなければいけない」という環境問題の解決策だと思っている。例えば防音壁が反射した音を、反対側の木で吸収する。是非次回の時にはみんなで見てもらって参考にしてほしい。
- ・ 有料道路をつくってお金を負担して。
- ・ (前の意見に対して)通らなくなったらまた赤字分を負担することになる(道路財源)現存の国道、県道等の道を改良することがまずは大切と考える。
- ・ 高規格道路がどこにどういう経路で通るか。
- ・ 大町を素通りするような道ではない。
- ・ 糸魚川に通ずる道はしっかりしたものは必要(生活道路)。
- ・ お金の事も心配。
- ・ 高規格道路について勉強してきた。
- ・ 現存で改良すべき点について(地権者の立場より)
- ・ ほ場整備事業によって作られた道であり、オリンピックにより改良されたのが現実。
- ・ 起点変更発言について。松本市長の発言だと思うが、起点の変更が出来るのか。出来るならどういう根拠で変更出来るのか。
- ・ 県は白紙に戻して高規格道路の必要性、道路作るべきかそうでないかを話し合ってもらいたい。
- ・ イタリア型の高規格道路とは、市内等はゆっくり通過。郊外は早く移動出来る道で(一般道路に近い道)
- ・ 安全な道路が必要。
- ・ 県外の方にも良いと思ってもらえる道路が必要と思っている。
- ・ JRは廃止になったらということも考えに入れてほしい。
- ・ 北アルプス縦貫道路案も考慮した方が良いのでは。
- ・ 高規格道路の計画があるので、現道(国、県道)改良が進まないのではないかと。
- ・ 調査区間の変更が出来るのかが知りたい。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 4班 |

要旨

[もし道路を作るならこんな道路が良い(希望)]

- ・ 小谷の道の駅から南の道路の改良が必要。
- ・ 高瀬川右岸道路は事故が多く改良が必要と思っている。
- ・ 道を作るにあたって作ったあと改良の必要が無くなるような道を作ってほしい。
- ・ 環境に携わる仕事をしていて、後世に残すものとして必要不可欠なものを残さなければならない。
- ・ 起点は堀金より豊科インターが良い。
- ・ 高規格道路が出来れば事故がなくなるのか。
- ・ 生活道路で事故が起きない道路が必要だと思う。とにかく安全な道が必要だと思う。
- ・ 歩行者は地下道を通るのが大変(特に老人)なので、車がアンダーパスすれば良い。
- ・ 信号機が少ない道路。
- ・ 白馬に行く道路として考える。
- ・ 大系線(電車)を考えると生活路線を考えてのスピードアップが図れない。スピードアップが図れれば関東圏へのアクセスが良くなる。
- ・ 目的地に早くいける(スピードアップ化)。早く安全に走れる道が必要。
- ・ 交差点の無い道路。
- ・ 豊科 - 大町 - 小谷への高規格道路。
- ・ 自然にマッチした道。(カナダの道)道路の両側は木がある道。
- ・ 流通のコスト面も考えると高規格の広い道路が必要。
- ・ 京都の宮津市の例(あまの橋立)観光客の宿泊客が減り日帰り客の増加問題。
- ・ 時間の問題は都内の交通アクセス、市場の荷下ろしの順番が一番かかる。
- ・ 今、一番の改善を必要な小谷の雨中地区の国道のバイパス的な道を作る方が先決。
- ・ 改良、改良と言うより、一本良い道を作った方が良い。
- ・ 幅員の広い道路が必要。
- ・ 人を集める為にも道路は必要。しかも回りから見ても良いと思える日本を代表する様な道。
- ・ お客が来なければ、お客がきてお金を落として行かなければ生活が成り立って行かないと思うので、温泉郷、黒部ダム、市内の商店街が、その他それぞれの立場が、生活の事を考えたりした中で、道路を考える必要がある。
- ・ 高瀬川左岸を改良して高規格道路(豊科インター起点で)
- ・ インター10km圏内は人口増。大北地区だけが外れている。
- ・ 道が渋滞すれば、日帰り客ですら来なくなる。なおさら魅力無ければもっと客が来なくなる。抜け道を探し町に入り事故も増える。
- ・ 山、湖を見られる。オアシス的なものを持った道路。
- ・ スピード化。(豊科インター起点)
- ・ 安全な道路を望む。
- ・ 自然にマッチした道路。
- ・ 大町へ外部を引きつける道路。
- ・ 小谷、雨中地区の道路改良は最優先で考えるべき。
- ・ 高瀬川利用の計画も必要。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 5班 |

要旨

2001年11月5日 第3回大町市意見交換会 5グループ資料 検討テーマ：11月22日 グループ全体発表会に向けて

5グループとして結論付けはできませんでした。高規格道路の**位置付け、必要性、緊急性**を指標にしグループの意見を分類しました。

指標の“**必要性**”を例として説明すれば、上位意見項目が必要性の高い意見。下位項目が必要性の低い意見として整理しました。

1 大北地域への位置付（どういう道路を位置付けるのか）

- ・ 地域高規格道路
- ・ 必要な区間、バックアップ道路
- ・ 生活道路改修、拡幅工事
- ・ 現状の道路整備状況で充分、新たに道路建設する位置付けにはない
- ・ 自然破壊につながる（位置付け以前の問題）
- ・ 生活の豊かさは道路整備ではなく、今あるものの充実、他にやることがある

2 大北地域への必要性（何のために必要なのか、必要でないのか）

- ・ インフラ整備事業による地域内の潤いが必要
- ・ 災害等からライフラインを確保するため必要
- ・ 広域的な物流、観光、人口増を促進するため必要
- ・ 高速交通網から取り残されない地域になるため必要
- ・ 既存道路のマネジメントを主とした道路改修で対応。必要性もその範囲にとどめる
- ・ 現状道路の安全面に必要性があればその必要な対策を講じればよい
- ・ これ以上新たな道路建設は必要ではない
- ・ 建設自体が必要性以前の問題。環境破壊につながる

3 大北地域への緊急性（従来の県側の姿勢が占める割合が高い指標）

- ・ もともと国、県の主導するプロジェクトとして緊急性を有するものか
- ・ 道路整備計画や他の事業との一体的整備に緊急性があるか
- ・ 大町市以北、特に小谷以北では緊急性がある（意見集約）
- ・ 大町市以南、特に安曇野では緊急性がない（意見集約）

結論

意見交換会によって地域住民が参加し2項対立ではない意見交換をしました。今後、県・関係市町村等は住民代表等を交えたなかで、公共事業の評価基準を策定し、情報公開の原則のもと計画構想段階から住民意見を聴く機関を設置し合意形成の手続きを踏んで、この高規格道路問題の結論または提案を示してもらいたい。

合同報告会要旨 要旨

開催日時

11月 22日(木)
19時 ~ 21時

市町村名

大町市

グループ名

6班

要旨

松本系魚川高規格道路意見交換会 全体発表 原稿

日時&場所：平成13年11月22日 午後7時～ 『サンアルプス大町』

発表内容

まず、第6グループの意見交換の経過説明をいたします。

私たちは、【賛成・反対】の2極的な意見ではなく、参加者それぞれの考えや想いを共有することを目的に話し合いました。9月26日、10月10日、11月5日の3回を意見交換に、そして11月6日と11月9日には本日の原稿内容を検討しました。

当初、私たちのグループでは、

- ・ 高規格道路ができることによって、地域と高速道路とを接続すれば「企業がくる」「働き場が増える」「人が増える」といった、地域産業の発展につながる。
- ・ 物流の基本である道路整備は必要である。
- ・ 高規格道路の建設は利便性の高い交通手段を得るまたと無いチャンスである。
- ・ 経済の閉塞感があるときに、道路を造るメリットがわからない。
- ・ 道路にかかるお金で、医療や教育を整備したり、福祉事業に使ったほうがよい。

などの意見が出ていました。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 6班 |

要旨

===== 発表者交代 =====

本当に、高規格道路は、今、この地域において必要でしょうか？

確かに、高規格道路は、法律・会計の上では資産であり、家計においても資産は持たないより、持っていたほうが好ましいと考えるのは大方の意見でしょう。しかし、資産は負債と資本の合計で、資産における負債の割合が大きいと、それに見合った収益がないと、いずれ破綻を招きます。高規格道路を建設しただけで、この地域に、どれだけの収益をもたらすことができるのでしょうか。負債の額を増加させるだけに終わる可能性も否定できません。高速道路とのアクセスが向上すれば、企業が進出し、雇用の場が増え、人口が増え、地域が発展するという意見もあります。

しかし、反対に人が流出したり、単なる通過点となる恐れも考えられます。様々な状況を総合考慮して、今、この地域において多額の税金投入による高規格道路の建設が優先されるべきことでしょうか。高規格道路建設により、一時的な労働人口の増加による経済効果もあるでしょう、多額の建設費のうち幾らかは下請け、孫請けとして地元の建設業にも落ちるでしょう。しかし、その建設費のほとんどは大手有名ゼネコン・銀行の懐にいくはずで。そのような高規格道路の建設を本当に手放して賛成することが出来ますか？本当に国民・住民のための計画といえるのでしょうか？**国・公共団体は最小の支出で最大の効果をあげる責務があるはず**です。

現在、様々なリサイクル化がドイツなど先進諸国において行われ、日本においてもリサイクル関連の法律整備が始まり順次拡大していく傾向にあります。社会インフラにおいても、まず**既存物の有効利用を考慮すべき**ではないでしょうか？例えば、渋滞の予想される路線において、上下一車線の道路を上下合わせて三車線にし、予想される渋滞時間により片側一車線、反対車線を二車線にするなど。

いずれにしても、道路があれば、地域がよくなるというのではなく、地域に魅力があり、人の流入が増え、道路が必要になるという状況にすべきではないでしょうか？そのためには、この**地域に人が流入し、定住したくなるような魅力ある地域**にどうすべきかを考えるべきではないでしょうか？又、住民がそのようなことを考えていく場を設けるべきではないでしょうか？

地方自治法には議員の紹介を要する請願権、数多くの署名と煩雑な手続を要する条例制定改廃請求権等の直接請求権が明記され、住民であれば何人でも権利行使可能とも明記されていますが、現実には、資金・人脈等を要し、極限られた者しか権利行使することが出来ないのが実状です。本当に何人でも公共団体の運営に直接参加でき、意見・アイデア等を公共団体に述べられるシステムを構築すべきではないでしょうか？それこそが、地方自治の本旨のひとつである住民自治の本当の姿ではないでしょうか？

幸い、この地域には、組・班・町という公共団体と世帯の間に位置するコミュニティーが都会より数段確立されています。このシステムをうまく活用すれば、そのようなシステムを構築することができるのではないのでしょうか？

われわれ第6グループは、高規格道路の賛否からスタートし、少し発展した方向に結論が向かいましたが、われわれ第6グループは、この意見交換会を公共団体に住民の意見とアイデアを述べる場として、定期的を開催し、より開かれた住民自治、住民による住民のための町作りを実現するための場として発展させることを提案いたします。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 6班 |

要旨

==== 発表者交代 =====

私たち第6グループにおいても、当初から、この「松本系魚川高規格道路」の建設において以前より論じられている、メリット・デメリットについての意見交換がなされました。

しかし、この「インフラ」としての道路を論じる際に、どうしても「道路」のみを捉えて発言することがこの意見交換会のなかでは困難になってきました。

例えば、国や県での財政を行うシステムそのものについてや、老人介護や社会福祉など、ほかの分野のインフラ整備との関連性。つまりは税金の使われ方そのものについての問題を論じるようになってきたのです。

そこで、『10年～20年後の社会全体の将来を想像した当該道路のあり方』について、当グループでは終盤において、意見の交換が行われました。

変化の激しい現代において、この「10年～20年後の社会」を想像することは、かなり困難なことではありますが、今後、今までのような右肩上がりの経済成長は見込めるはずもなく、少子高齢化が進む一方となることは周知の事実であり、このような状況の中で、第6グループの発言者の内容にもあったのですが、

- ・ **市民の一人一人が義務である納税に対して、その当然の権利であるべきインフラ整備や社会福祉等を、今まで以上に真摯に考える必要がある。**

ということが、一つ云えると思います。

私自身の経験からお話しますが、都市部に生活する人々のなかで、私ぐらいの年代の方々からは、生まれたときから下水道を利用しています。つまり30年から40年前には整備が行われていたことになりす。大北地域では近年、下水道整備が進んでいるところです。

また、ガソリンの価格を考えてみると、1リットルあたり、かなりの割合で税金を払っていることはご存知でしょうか？ 大北地域では大人に限ってみれば大部分の人が自動車を運転し、ガソリンを消費します。都市部の人々は公共交通機関が発達しているため、無理に自動車を所有しないのです。

都市部では田舎に比べてかなり価格が安いように思われます。(リットルあたり10円程度の価格差があります。)人口に差があるので使用量では比較になりませんが、個人が使うガソリンの価格については、生活に欠かせない「田舎」のガソリンの元値を高くし、安売りしている「都市部」での損益をカバーしているといえるのです。

都市部に生活する人も「田舎」に生活する人も、同じ日本国民として、同じ税率で各種の税金を支払っています。しかし、ひとりひとりの個人がインフラから受ける恩恵に、現状では「都会」と「田舎」にあまりにも差が有りすぎるように思えます。

この一方、国土のほとんどが森林であるわが国において、その森林にちかいところに位置する「田舎」が過疎化し、この周辺の地域では田畑や里山が荒廃し、大切な国土が荒れていく速度が今後はさらに加速していくことが懸念されます。

これらの「都会」と「田舎」の不均衡、いわゆる、誰もが感じる「生活の豊かさ」の差が拡大することを食い止めたり、是正する手段がインフラ整備です。この「高規格道路」は、当地域での「10年～20年後」の生活や生産活動において、不自由や不安を感じることなく生活できる為の、社会生活や物流の動脈としての道路であるべきであると考えます。

この「20年後の豊かな社会の実現」の為に、総合的なインフラ整備の一環として道路を整備するとなると、従来の調査や計画決定方法では対応できるはずがなく、「新たな公共事業のあり方」として、ある程度の規模の事業をおこなう場合には、一般の企業や個人が多方面より事業の検討し、この結果が事業に対して反映され、本当の意味で「ゆたかな、将来「やってよかったな」と思えるような「みちづくり」を行っていくべきである。

……と、私たち6グループに参加した人は考えているのです。

合同報告会 要旨

| | | | |
|------|-------------------------|-------|----|
| 開催日時 | 11月 22日(木) 19時 ~ 21時 | | |
| 市町村名 | 大町市 | グループ名 | 6班 |

要旨

==== 発表者交代 =====

- ・ 国庫補助事業といえど、税金として納められたお金をつぎ込むのは買い物と同じであり、その使い道についての判断を各自が意識すべきではないだろうか。

- ・ 国でも県でも財政を司るシステムに、問題があるのではないだろうか。

というような、単に「高規格道路」の是非を問う議論にとどまらず、政治や社会構造全体に帰属する問題点をも含めた「地域が必要とする道路のありかた」へと意見交換の内容に広がりが出てきました。

このような意見が交換されるなかで、

- ・ この「高規格道路意見交換会」が開催され参加したことが、計画や地域社会に対して、果たしてどのような形で反映されるのか？
- ・ 目先のことでなく、20年30年後のこの大北地域を想像し、将来この地域の道がどのようにあるべきか？
- ・ インフラとしての「高規格道路」と、医療・福祉・教育その他各分野のインフラを考慮した、地域全体の整備計画としてあるべきではないか。

という疑問も生まれ、当初の意見交換内容からの発展をみることとなりました。

最終の意見交換会では「20年先の将来」「総合的なインフラとして」の2点について考察することとなりました。

- ・ このままでは20年後の大町は、もっと過疎化が進行する。いろいろな用途のある高規格道路であってほしい。
- ・ 現在、都会と田舎ではインフラから受ける恩恵に差がありすぎる。
- ・ 20年後は今よりも少子高齢化が進むのではないか。
- ・ 義務である納税に対して、当然の権利であるインフラ整備について真剣に考える必要がある。
- ・ 施設は、「利用する人」が使い易いものをしっかりと考えてからつくるべきである。

という意見が交わされました。

冒頭に述べたとおり、計3回もの意見交換会を重ねましたが「グループ全体の結論」をつけることは困難でした。

しかし最後に、

- ・ いろいろな意見をもった住民と事業主体である行政とが、公の場において意見の交換ができる、今回（「高規格道路意見交換会」）の様な取組みが、これを契機に根づいて行くことが望ましい。
- ・ この「意見交換会」での結論が、今後の事業や行政に反映されていってほしい。

との意見がありました。

これは、私たち6グループの全員が同感できるものでした。

またメンバーの一人ひとりが形は異なるが「この地域を良くしていきたい」という根底での想いは同じだということを、改めて確認しあえることが出来ました。

以上を持ちまして第6グループの発表を終わります。ありがとうございました。